

# あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会

会長 竹之下 洲一

編集者 広報部 玉利 良一

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館 0995 (65) 1553

## 夏季体験学習会「まが玉づくり」

始良市教育委員会社会教育課文化財係 深野 信之

歴史民俗資料館が毎年夏休みに開催している体験学習会は、小中学生の自由研究の題材として人気を博しています。今回、体験学習メニューの一つである「まが玉づくり」を市教育委員会と始良退職校長会が共催する「ムーミン講座」で実施することになり、文化財係と始良歴史ボランティア協会が担当しました。



定員 30 人の募集に対し 150 人以上の応募があったため、当初午前 2 回の予定を午前・午後 4 回に変更し、始良公民館に広い会場を設営して全員参加で開催することにしました。

学習会当日の 8 月 7 日(土)、講座開始の 30 分以上前から参加者が来場しました。

最初に文化財係職員が「まが玉」の歴史や作り方、作業上の注意点などを説明し、実際の製作に入りました。子どもたちは、各自が選んだ色の滑石を石のこぎりや紙やすりなどで削り、独創性に富んだ「まが玉」を作り出していきます。ボランティアは、子どもたちを見守りながら、年齢に応じたアドバイスをを行い、完成に導いていきました。

作り始めてから 1 時間弱でオリジナルデザインの「まが玉」ができました。ひもを通して首に懸け、「ほら、できたよ」と言って見せてくれる子どもたちの笑顔が、学習会の成功を物語っていました。

「文化財」は私たちにとってかけがえのない財産で、みんなで守り伝えていく必要がある一方、「文化財」という言葉は重々しく敷居の高いものです。「文化財」が生活に縁遠く何か堅苦しいだけの存在にならないために、市民のみなさんに身近で楽しいものとして感じてもらう今回のような活動を続けていく必要性をあらためて感じた 1 日でした。

## 市内史跡等の巡回点検を実施中

宮内伸一

始良市内には、国・県・市が指定した文化財が189件、登録文化財まで含めると202件の歴史的に重要な文化財があります。昨年より私たち始良歴史ボランティア協会が、主な史跡などの巡回と清掃活動を年2回実施することになりました。



市指定史跡「後藤塚」

巡回対象の史跡は、およそ80ヶ所程で、市内全域に点在していて、保存状態も様々です。巡回してみると、地域の皆さんが大事に維持・管理されているところもあります。周辺の方々が主体的に掃除などをしていただいているところもあり、大変ありがたく、史跡などに対する深い愛着を感じます。

しかしながら、なかには、歴史的な価値が分からないまま草の中に埋もれていて、地域の方々が知らない史跡も見受けられます。

それぞれの史跡について、皆さんに周知し、ともに地域の大事な歴史的遺産として保護していくのが行政の役割です。しかし、すべての史跡について、まだそこまで至っていません。



市指定有形民俗文化財「楠元の山の神」

現在、市の教育委員会も定期的に巡回しながら、史跡の整備や案内板の設置など計画的に行うよう努力されていますので、地域の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

始良市は、歴史的に重要な史跡などが多く、観光客も多く来られます。史跡が地域の皆さんの大事な宝として今後も守り続けていけるよう、私たちもこの巡回活動にボランティアとして主体的に取り組んでいきたいと思ひます。

## 暮らしの中の民具たち

坂元清美

7月22日～9月30日に歴史民俗資料館で令和3年度夏季特別展『暮らしの中の民具たち』が開催されました。昭和30年代まで日常生活の中で盛んに使われていた、農具や生活必需品などが数多く展示されました。

私が興味を持ったものが、醤油造りに使用された「ショイのス」でした。幼いころ、田舎に行くと、私の体が入るくらいに大きな甕かめを使って、父や母が熱心に醤油を作っていました。大きな甕に、蒸した麦だいなと大豆だいずに麴こうじを加え発酵させたものを入れ、「マゼボ」を使って「ショイのス」で漉すときれいな醤油ができました。家庭ごとに少しずつ味や色が違っていたことを覚えています。しかし、しばらくたつと、醤油はお店で買うことが多くなり、いつの間にか「ショイのス」も「マゼボ」も見られなくなっていました。



そのほかにも、いろいろな民具が並べられていました。竹製で底がとがった「塩てご」、豆やそばを引くための「石臼」、脱穀用の「唐箕たっこく(トン)」などなど。今は使われることはなくなりましたが、無機質な機械工具と違い、どこかに温かみを感じる民具たちでした。

## 令和3年度始良小学校3年生社会科見学

始良小学校では6月17日(木)3年生4クラスの児童と担任の合計130名が歴史民俗資料館の見学と市内の史跡巡りを行いました。歴史ボランティア協会では、各クラスに2名ずつ計8名で引率し、説明を担当しました。各担当者からの記事を掲載します。

### 歴史民俗資料館の展示案内

橋本雅晴

資料館では、①始良市の地形図模型(ジオラマ)、②ビデオコーナーで始良町の田の神、③昭和30年代の住宅、④100年前の復元民家に分かれて説明し、見て触れてもらいました。



私の担当は始良市の地形図模型に表示されている社会科項目、歴史項目、自然項目の主要項目を説明。押しボタンで地図上の場所を確認してもらおうのですが、ボタンの奪い合いになるほどの盛況ぶりでした。自然項目では「始良市

には活火山があります。住吉池と米丸の丸い田んぼです。」と説明すると皆驚いていました。逆に私が驚かされたのは、始良市内のJRの駅ができた順番を質問すると①重富駅・加治木駅、②帖佐駅、③錦江駅、④始良駅と見事に正解を答えた児童がいて、事前に「私たちの始良市」の副読本を読んでいたのか、あるいは夏休みの自由研究で勉強したのかと感心させられました。

### 山田の凱旋門

竹之内茂

山田の凱旋門では事前に予定していなかった松原なぎさ小学校の児童たちが訪れ、飛び入りで説明するというハプニングがありました。

今から115年前の明治39年(1906)に建てられた石造りの門であることや、明治37年に日本とロシアの戦争に山田村から113名が従軍し、

無事生還した人達へ「無事に帰って来ておめでとう」との気持ちを込めて迎えるために

造られた門であること、この門は全国的にも珍しく貴重なもので国の「登録有形文化財」になっていること、使われている石は山田の上名で採石された池平石で「山田村兵事会」が建設したことなどを説明しました。

これをきっかけに戦争の悲惨さや平和のありがたさを理解して欲しいと願いました。



### 蒲生麓ガイド

梅田眞次

蒲生麓について、蒲生八幡神社・大クス・御仮屋門・武家門通り・観光交流センターを巡り、案内をしました。小学3年生ですので私たちの説明が充分理解できているのか心配でした。



大クスではイラストを使い、樹高が30メートル、日本一といわれる幹回りは24.22メートルであることを説明しました。樹齡は普通年輪で数えますが、大クスは年輪がわからないので推定で1500年と考えられていることを説明しました。子供たちは配布されたワークシートに、熱心に説明を書き込んでいました。

## 『始良市誌 別巻3』新聞記事を読んで2 「重富脇元水神碑」建設の経緯について 竹之下洲一

脇元の水神碑の碑文に「大正3年(1914)1



脇元の水神碑

月12日桜島爆発、陸地沈下、超テ八月暴風之為堤防破壊、(中略)大正4年2月起工、11月竣工シ紀念之為ニ建之」とあります。

この碑建設の経緯に係りのある新聞記事を『始良市誌別巻3』より、拾い出してみました。

大正3年7月

27日の記事には「爆震の結果陥落、(中略)各沿岸地方とも潮水侵入の虞あり、(中略)目下菜薹(薹：鹿児島)中の陸軍参謀本部陸地測量班の実地調査の結果、(中略)重富地方は二尺三寸一分(約6.15m)陥落」とあり、1月12日の桜島大爆発により重富では約6m陸地が沈み、暴風雨になれば海水の侵入の恐れがあると予想されていました。

同年8月3日の記事には、「7月25・6日來の高潮と天候は、(北隅)地方に一層の惨禍を与え(中略)、重富村思川の西岸16町歩の水田は、先に堤防破壊し潮水浸入せしを以て、村は応急の工事を施し漸く挿秧(田植)を了したるも、去る26日の高潮の際再び破壊され全部浸水」と、思川の堤防が破壊され、浸水により被害を受けたことが記されています。

さらに、8月25日の記事には「22・23・24日の増潮は重富方面に少なからぬ被害を与え、(中略)付近の住居百数軒は潮水床上に及び住民は避難」と、8月22～24日の暴風雨でも再び浸水被害を受けてしまったことが書かれています。

その後重富村では県費の補助を受け、大正4年(1915)2月から堤防の復旧工事が始まり、11

月に竣工しました。大正4年11月22日の記事には「重富村河川堤防の第1期復旧工事はすでに竣工せるを以て、13日午後2時より新堤防上に於て竣工式を挙行し、引続き第2期工事の水神祭を執行、(中略)閉式祝宴に移り、婦人連の手踊・相撲等の余興あり、非常の賑わいなりき」とあります。以上のような経緯で「重富脇元水神碑」は建設されたのです。

なお、川をはさんで向い側の山野にも、大正5年(1916)5月復旧工事が完了したことを物語る水神碑が建てられています。



山野の水神碑

### 編集後記に替えて

新型コロナウイルスまん延防止等重点措置が解除になったばかりですが、新聞やTVではいろんなニュースが報じられています。

コロナ感染の状況、岸田内閣が誕生したこと、白鵬関の引退に関すること、MLBの大谷翔平がホームラン46号を打ったこと、女子ゴルフの勝みなみが日本女子OPで優勝したこと、ノーベル賞に関することなどなど。数年も経てば「歴史」として語られるであろう時間の流れの中で生きていることを実感させられています。

一方、身近なところに目を向けると犬槇に害虫「キオビエダシャク」が大量発生して、蒲生の御仮屋犬槇が悲惨な状態となっています。このままでは大切なものを失いかねません。

歴史の中で生きていることを自覚し、SDGsに留意しながら生きていきたいものと思います。

